

矮性リシアンサス (ポット・花壇用トルコギキョウ)

特徴に応じた4種類の製品ラインを紹介

フロリダ・シリーズ

温度の高い育苗環境でもロゼットに入りにくい性質の矮性品種です

ポットサイズ:	10-15cm
用途:	ポット、花壇等
矮化剤(PGR):	10(10.5)cm 鉢出荷の場合は必要
多粒播き:	向いています
分枝:	地際の分枝を促すには十分な照度が 必要です
ロゼット耐性:	耐性のある品種です
花色:	ピンク、ブルー、スカイブルー、 シルバー

リサ・シリーズ

市場流通品種としては最も早生の品種です。

ポットサイズ:	7-15cm
用途:	ポット
矮化剤(PGR):	とくに必要ありません
多粒播き:	向いています
分枝:	ふつう
ロゼット耐性:	ふつう～ややある品種
花色:	ブルー、ラベンダー、ホワイト、ピンク

フォーエバー・シリーズ

低驚異的な分枝を生み出す画期的な矮性トルコギキョウです。

ポットサイズ:	10-15cm(15cm 鉢で3本植付け)
用途:	ポット、花壇等
矮化剤(PGR):	10(10.5)cm 鉢出荷の場合は必要
多粒播き:	旺盛に分枝するので不向き
分枝:	照度が低くても、育苗段階で地際から 旺盛に分枝します
ロゼット耐性:	ふつう～ややある品種
花色:	ブルー、ホワイト

サファイア・シリーズ

インドアプラントとして、またギフトにも最適な品種

ポットサイズ:	7-15cm
用途:	ポット
矮化剤(PGR):	とくに必要ありません
多粒播き:	旺盛に分枝するので不向き
分枝:	照度が低くても、育苗段階で地際から 旺盛に分枝します
ロゼット耐性:	ふつう～ややある品種
花色:	ブルー、ミッドブルー、ピンクリム、 ブルーチップ、ダブルホワイト

プラグ生産ステージ

本品種の学名: *E. grandiflorum*

Note: リシアンサスは、育苗に経験と技術を要する品目であり、リスク回避の面からもプラグ苗の購入を奨励します。供給種子は、播種しやすいペレット種子のみです

種子粒数: 1,000 粒/グラム

プラグトレイ・サイズ

512 穴トレイを用いた栽培ガイドです

ステージ1(10-12 日間)

- 地温は 22-25°C を維持しましょう
- 育苗段階では徹底して、夜温 18-21°C、昼間温 21-24°C を維持するようにしましょう
- 培地はいくぶん湿気を含むくらいが適当です
- 覆土の必要はなく、種子は浅めに播きましょう。
- 幼根が現れるまでは光は必要ありません。ステージ2では発育を促すために光が必要です。
- 土壌 pH を 6.2-6.5、EC 値 0.75 mmhos/cm(2:1) を維持しましょう。
- リシアンサスは、とくに発芽ステージでは高濃度の塩類による障害が出やすいので、アンモニア類を 10ppm 以下に抑えましょう

ステージ2(14-21 日間)

- 地温は 20-22°C を維持しましょう
- 幼根が出てからは湿度を下げましょう。発芽後は根の回りの環境を整えるため、過湿を避けて乾かしぎみの管理をしましょう
- 子葉が開いて、培地を乾かしぎみに管理することで根が早く深く進出し、リシアンサスは健康に生育します
- ステージ2では健康な生長を促すために光が必要です。発芽チャンバー等に長期間、放置されると苗が死んでしまうので注意しましょう
- 冬の低温期の育苗では、育苗期間をできるだけ短くする観点からも照度を 4,500-7,000 ルクス の範囲にしましょう
- 土壌 pH を 6.5-6.8、EC 値を 0.75mmhos/cm 以下に維持し、アンモニア類の濃度を 10ppm 以下に抑えましょう
- 子葉が完全に展開したら、14-0-14 の肥料を 50-75ppm(N) で与え始めます
- ステージ2の途中で、肥料を 20-10-20 に 1、2 度切り替えて 50ppm で与えましょう。このときアンモニア類の濃度が 10ppm 以下であることをしっかり確認しましょう
- 肥料とかん水は交互に行います
- かん水は午前の早いうちに行い、葉の傷みや病気を防ぐため、葉に水滴が残さないようにしましょう

ステージ3 (28-35 日間)

- 地温は 18-20℃を維持しましょう
- 培地はできるだけ乾かしぎみで管理し、根の発育と節間の伸張抑制を心がけます。ただし培地を乾燥させすぎて苗を枯らさないよう十分に注意しましょう
- 土壌 pH を 6.5-6.8 に維持し、EC 値を 1.0 mmhos/cm 以下に抑えます
- 20-10-20 と 14-0-14 の肥料(あるいは硝酸カルシウム・カリウム系肥料)を 100-150ppm(N)に上げて交互に与えましょう
- 肥料はかん水 2,3 回に 1 度が目安でしょう。
- ステージ 3 では、1,2 回マグネシウムを含む 15-0-15 の肥料を与えましょう。マグネシウムを足す場合は、硫酸マグネシウムあるいは硝酸マグネシウム溶液(水 10L に 10 グラム)を用いましょう。硫酸マグネシウムと硝酸マグネシウムの混合使用は、溶質が沈殿するためどちらか一方のみを用います
- DIF(昼・夜間の温度差による生長制御方法)を可能な限り用いて丈を抑えましょう。とくに日の出後の 2 時間は効果が高いです。この段階ではとくに薬剤による矮化処理は必要ありませんが、用いる場合は B-9 を使います

ステージ4 (7 日間)

- 地温は 17-18℃を維持しましょう
- ステージ 4 でも培地はドライに管理しますが、これまで同様苗の枯渇には十分注意しましょう
- 土壌 pH を 6.5-6.8、EC 値を 0.75 mmhos/cm 以下に維持しましょう
- 必要に応じて 14-0-14 か硝酸カルシウム(石灰)・リン系の肥料を 100-150ppm(N)与えます。
- この段階で重要なのは、根が回りすぎないうちに速やかに鉢上げします。苗の移植が遅れると分枝の遅れ、その後の苗の生長に悪影響が出ます

鉢上げから出荷まで

コンテナサイズ

コンテナのサイズは品種によって異なります。前ページの各品種の特性を参照の上、適当なコンテナのサイズを選びましょう。ポットサイズが合わない株にストレスがかかることがあります

培地

水はけがよく、新しく衛生的な用土を用います。初期栄養分は中庸にして、土壌 pH は 6.5-7.2 を維持します

生育適温

夜 温: 16-18℃

昼間温: 20-24℃

照度

40,000 から 50,000 ルクスが適正です。生育適温域が維持できるのであれば、照度はできるだけ高くしましょう。照度の高い方が花芽分化が進み、同時に徒長の防止にもつながります。日照不足の環境では HID による電照で補光します。移植後の初期段階では株の生育助長に効果があります。さらに花が上がってきてからは、花卉の褪色を防ぐため軽く遮光しましょう

かん水

多かん水を避けて、水やりの間を置いて乾かしぎみに管理します。リシアンサスは生育速度の遅い植物なので、多量の水を必要とはしません。ただし開花後はそれまでよりも水を必要とするので、水切れにならないように注意しましょう

肥料

かん水と 1 回おきに、15-0-15 と 20-10-20 を交互に 100-200ppm(N)与えましょう。EC 値は 1.5mmhos/cm(1:2)を維持

矮化処理剤(PGR)

根が十分回ってポットの内壁に達したら、かん水を抑えることで生長をコントロールします。リンやアンモニア態窒素を控えることでも、徒長を抑制することが可能です。かん水と肥料を控えることで株はコンパクトになりますが、同時に低栄養というストレスを受けるためやや耐病性がおちるので注意が必要です。またリシアンサスは、前述のように DIF にもよく反応します。薬剤による処理の場合は、B-9 に効果があります。ポット上げ後 2,3 週で 1,500ppm を散布し、もう 1 度行う場合はさらに 2,3 週後に同倍率が有効です。ただし、サファイア・ブルーはこのような処理を施さなくても十分にコンパクトな株に仕上がります

管理中の病害虫や障害

害 虫: アブラムシ、ハダニ、スリップス、ホワイトフライ等

病 気: ボトリティスやフザリウム、ピスリム等の菌

その他: コケ類の繁殖

平均的な生産期間

播種-プラグ期間(512 穴): 8-10 週

ポット上げ(10cm)-開花: 12-14 週*

*: 36 穴トレイに上げても開花はほぼ同じです

開花後の保持とケア

これらの植物は、夜温 16-18℃、昼間温 20-21℃が最適な環境です。前述のように DIF などを用いて、徒長しないバランスのよい、質の高い株を維持しましょう。リシアンサスは、日あたりのよい場所を好みますが、店頭では半日陰(遮光がある場所)の場所に配置する方が、株も花も長もちします

注意点: EC 値(電気伝導度)は、ピート主体の北米の用土を算出の基準としているので、土を用いた配合では適合し得ない場合があります。

2005 年 9 月 改定

PanAmerican Seed

PanAmerican Seed Co.

622 Town Road, West Chicago, Illinois, USA 60185-2698

630 231-1400 Fax: 630 231-3609 www.panamseed.com

©2000 Ball Horticultural Company Printed in USA PAS03057

Originally issued in USA, and under permission translated into Japanese in 2005.

Printed in Japan